第４学年１組　社会科学習指導案

指導者　　千々松　哲大

１　単元　　瀬戸内のハワイ「周防大島町」～特色ある地域のまちづくり（国際交流）～

２　指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは，「山口県内の文化財や祭り」において，光市の早長八幡宮秋まつりについて調べたことを基に，祭りを受け継ぎ保存していることの意味を考える経験している。そこでは，保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いとを関連付けながら，文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えてきた。しかし，これからも祭りを受け継ぎ保存していくために，自分たちにできることを考えたり選択・判断したりする場面では，社会的な見方・考え方を働かせながら，自分の考えを形成したり，よりよい選択・判断をしたりする姿が少ないように思えた。

そこで，単元を構想するにあたっては，次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は，地方自治体が抱える課題を解決するためには，どのようなことが有効かを，県内の特色ある地域の様子について調べたことを基に，自分の考えを形成する単元構成となっている。山口県内の特色ある地域として，国際交流が盛んな周防大島町，萩焼を生かした萩市，そして大内文化を守り続ける山口市を取り上げる。本単元での子どもは，地方自治体が抱える課題の解決に向けて，国際交流が盛んな周防大島町のまちづくりについて関心をもちながら追究するだろう。ここでは，社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりすること大切にしたい。

そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

○　第一次では，地方自治体が抱える課題について知り，その解決策を考える場を設定することで，課題意識をもちながら，学習に取り組むことができるようにする。

○　単元を通して，学習で使用した資料や板書写真を，タブレット端末に保存させておくことで，いつでも学習を振り返ったり，その後の学習の手がかりにしたりすることができるようにする。

○　第四次では，教師の提示するまちづくり案の有効性を反論によって確かめる場を設定することで，社会的な見方・考え方を働かせながら，提案を批判的に検討し，よりよいものに修正していくことができるようにする。

３　目標

国際交流が盛んな周防大島町のまちづくりについて，位置や自然環境，人々の活動や歴史的背景などに着目して，各種の資料で調べてまとめ，地域の様子を捉え，特色を考え，表現することを通して，特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりの発展に努めていることを理解できるようにするとともに，それらを生かして，光市のまちづくり案を創造し，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

４　well-being につながる学びについて

本学園では，well-being を「個人だけでなく，社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には，教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を，人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには，エージェンシー（変化を起こすために，自分で目標を設定し,振り返り，責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考える。

本学園の社会科部では，社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする子どもを育成する授業が，教科の本質に迫る授業だと捉えている。また，エージェンシーを発揮している姿を，社会的な見方・考え方を働かせ，自分の考えを形成したり，よりよい選択・判断をしたりしながら，課題の解決に向かう姿だと捉えている。本単元においては，まちづくり案の有効性を反論によって確かめる場を設定する。社会的な見方・考え方を働かせながら，提案を批判的に検討し，よりよいものに修正していく様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは，社会的事象を多角的に考えたり，よりよい社会を創造したりしながら，個人や社会の良好な状態を追究できるようになり，well-being の実現につながるだろう。

５　指導と評価の計画（総時数　８時間）

次	○主な学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価方法と【評価規準】
一 ①	○　光市などの地方自治体が抱える課題について知り，その解決策を考える ・地方自治体が抱える課題 ・光市のまちづくり案	○　単元の導入時に選択・判断する活動を設定するとすで，その曖昧さから，そのもちなことが課題意識を取りながら，学習に取り組むことができるようにする	発言やノートの記述内容から「地方自治体が抱える課題について捉えているか」を評価する。【知－①】 発言やノートの記述内容から「光市のまちづくり案を考えようとしているか」を評価する。【態－②】
二 ①	○　周防大島町のまちづくりに関わる疑問から，学習問題をつくり，その学習の予想や疑問を基に学習の計画を立てる ・学習問題 ・予想　・疑問 ・学習計画	○　学習問題に対する答え予想や疑問を基にする学習計画を立てるとし，単元の学習をもち，学習の見通しをもち取りながら，学習の見通しができるようにする	発言やノートの記述内容から「周防大島町のまちづくり活動の位置付けを見出しているか」を評価する。【思－①】 発言やノートの記述内容から「学習問題について予想や学習計画を立てようとしているか」を評価する。【態－①】
三 ④	○　国際交流が始まった背景について調べる ・国際交流が始まった背景 ○　国際交流事業について調べる ・国際交流事業 ○　国際交流を生かした取組について調べる ・国際交流を生かした取組 ○　国際交流を生かした取組を行う意味について考える ・国際交流を生かした取組を行う意味	○　学習で使用したタブレットを使用して学習の資料や端末で真存保存したり，学習の後の資料をのりこしたりする ○　単元の達成度合いを振り返る活動を設定することで，学習成果を吟味することが新たなる問いを見出すことができるようにする	発言やノートの記述内容から「国際交流が始まった背景について捉えているか」を評価する。【知－①】 発言やノートの記述内容から「国際交流事業について捉えているか」を評価する。【知－①】 発言やノートの記述内容から「国際交流を生かした取組について捉えているか」を評価する。【知－①】 発言やノートの記述内容から「国際交流を生かした取組を行う意味について捉えているか」を評価する。【知－①】
四 ② 本時 ２／２	○　学習問題について，調べて分かったことを整理し，まとめる ・周防大島町のまちづくり ●　周防大島町のまちづくりを踏まえて，光市のまちづくり案について検討する ・光市のまちづくり案	○　学習問題に対する答えと，調べたことを比較し，学習のなかで，深まりのことと学習とのつながりを感じるようにする ○　提案を反論にする活動で，社会を批判・解決をすることができるようにする	図の記述内容から「周防大島町のまちづくりは，人々が協力して特色ある取組を理解しているか」を評価する。【知－②】 図の記述内容から「周防大島町の人々の活動の地域の特色を考えようとしているか」を評価する。【思－②】 ワークシートの記述内容から「周防大島町の光市とを比較し，学習案を考えようとしているか」を評価する。【思－②】 ワークシートの記述内容から「学習したことを基に，光市のまちづくり案を考えようとしているか」を評価する。【態－②】

６　本時案　―第四次・２時分―

⑴　主眼　　教師の提示するまちづくり案について話し合うことを通して，特色ある地域では，その地域ならではのよさを基にまちづくりを行っていることを理解し，光市のまちづくりについて考えることができる。

⑵　準備　　タブレット端末　ワークシート　など

⑶　学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1　周防大島町のまちづくりについて振り返る 周防大島町は，どのようなまちづくりを行っていたか ・周防大島町のまちづくり ・国際交流を生かしたまちづくり	ア　ハワイをモチーフにした飲食店やイベントなどがあったね イ　町役場の人たちは，アロハ・ビズを着て，仕事をしているよ ウ　ハワイとの交流を生かしたまちづくりを行っているね。「瀬戸内のハワイ」とも言われているよ	・　タブレット端末に保存させている資料やノートなどを参考にしながら振り返らせる。そうすることで，確かな根拠を基に，既習事項を確認することができるようにする	10
2　教師の提示するまちづくり案について話し合う 光市も，周防大島町のように，アロハ・ビズを採用するのはどうか ・教師の提示するまちづくり案についての賛否 ・光市でアロハ・ビズが難しい理由 ・光市とハワイの関係 ・周防大島町でアロハ・ビズが可能な理由 ・周防大島町とハワイの関係 ・周防大島町の目指すまちづくり	ア　難しいと思うな。光市とハワイとで交流があればいいかもしれないけど，聞いたことないよね イ　周防大島町は，昔ハワイとの交流があったよ。その交流を今もなお続けているから，アロハ・ビズが可能なのだと思うな ウ　しかも，周防大島町はハワイらしさをウリにしているよね。だから，アロハ・ビズは宣伝効果も絶大で意味があると思うよ エ　光市が採用したとしても，「何の意味があるの？」と思ってしまうな オ　つまり，そのまちならではの特色を生かしたまちづくりをすることに意味があるということだね	・　教師の提示するまちづくり案について批判的に検討させる。そうすることで，案の不十分な点を明らかにし，有効性のあるまちづくり案を考えることができるようにする ・　光市と周防大島町の実態を比較しながら探らせる。そうすることで，その地域ならではの特色を生かすことのよさに気付くことができるようにする	30
3　光市のまちづくり案について考える 光市では，どのようなまちづくりができそうか ・光市のまちづくり案 ・今後の見通し	ア　周防大島町のように，光市にも姉妹都市がないかな イ　残念ながら，光市にはないみたいだね。特色を生かすのなら，国際交流以外にもあるのではないかな ウ　３年生の時に学習した飴工場は，光市ならではの工場と言えると思うよ エ　その地域ならではの産業をウリにしているまちはないかな オ　萩市の萩焼は，有名だよ。次は，萩市のまちづくりについて調べてみたいな	・　教師の提示するまちづくり案の不十分な点を，光市の実態を基に修正するように促す。そうすることで，光市に対する誇りや愛情をもちながら，光市のまちづくりの可能性を模索したり，他のまちづくりに対する関心を抱いたりすることができるようにする	45

⑷　評価規準と方法

教師の提示するまちづくり案についての話し合いを踏まえて，特色ある地域では，その地域ならではのよさを基にまちづくりを行っていることを理解し，光市のまちづくりについて考えることができたか，ワークシートの記述からみとる。

＜メモ＞

※　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①周防大島町の位置や自然環境，人々の活動や歴史的背景，人々の協力関係などについて各種の資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，特色ある地域の様子を理解している。 ②調べたことを図や文などにまとめ，周防大島町では，人々が協力し，特色あるまちづくりの発展に努めていることを理解している。	①周防大島町の位置，人々の活動や歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，問いを見出し，特色ある地域の様子について考え，表現している。 ②周防大島町の人々の活動とその地域の発展とを関連付けたり，自分たちの住む地域と比較したりして地域の特色を考え，適切に表現したり，学習したことを基に，光市のまちづくり案を考えたりしている。	①周防大島町の様子について，予想や学習計画を立てたり，学習を振り返ったり見直したりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。 ②学習したことを基に，光市のまちづくり案を考えようとしている。

第２学年１組　社会科学習指導案

指導者　　池田　幹太

１　単元　　東北地方　～交通や通信を中核として～

２　指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは，中国・四国地方の学習において，交通・通信を中核とした考察を経験している。そこでは，空間的相互依存作用をうまく活用しながら，他の地域との結びつきや近隣地域との相互補完の作用について関連付けるといった活動をしてきた。しかし，交通網が発展すれば人口が集約するといったように，交通網の発展と人々の生活について安直に考え，他の事象やそこで生ずる課題と関連付けながら，構造的に理解することができていない子どもが少なくないように思える。

そこで，単元を構想するにあたっては，次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は，東北地方について，他地域よりも整備が遅れていた交通網が整備されたことによる発展の流れを中核として考察し，東北地方での産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付けて様々な視点から考察をする教材である。その中で，他の地域との結び付きや，相互補完の作用といった，「地理的な見方・考え方」を働かせる。この地理的な見方・考え方のうち，空間的相互依存作用を活用する場面を授業者が明確に位置付けることを大切にし，生徒自身の力で見方・考え方を選択・判断することができるようにしたい。

そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

○　第一次では，子どもの疑問に基づいて単元を貫く課題を設定する。そうすることで，交通・通信を中核として考察していくことを意識付けることができるようにする。

○　第二次では，交通・通信を中核としながら考察する。そうすることで，産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付け，多面的・多角的に考察していくことで東北地方の地域的特色について明らかにすることができるようにする。

○　第三次では，東北地方の地域的特色について整理する場を設定する。そうすることで，地方の一般的共通性と地方的特殊性について分析し，東北地方の地域的特色についての自分なりの解釈を見直すことができるようにする。

３　目標

⑴　東北地方の地域的特色について，「交通・通信」を中核として考察する活動を通して，地域の広がりや地域内の結びつき，人々の対応などに着目しながら，他の事象やそこで生ずる課題と関連付けについて理解する。（知識及び技能）

⑵　東北地方において，交通網の発展によって，人々の生活にどのような変化が見られるのかという課題に対して，他地域との結びつきや，人々の生活の変化に着目して，東北地方での産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現する。（思考力，判断力，表現力等）

⑶　東北地方の地域的特色の考察に進んで関わり，探究していく活動を通して，地域の課題について考察しようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

４　well-beingにつながる学びについて

本学園では，well-being を「個人だけでなく，社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には，教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を，人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには，エージェンシー（変化を起こすために，自分で目標を設定し,振り返り，責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考える。

本学園の社会部では，社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育成する授業が，教科の本質に迫る授業だと捉えている。また，エージェンシーを発揮している姿を，課題の解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせ，よりよい選択・判断をすることを通して自己の解釈を形成しようとする姿だと捉えている。本単元においては，交通網を中核とした考察を行うことによって，地理的な見方・考え方の空間的相互依存作用が中心となって活用する場面が多くなる。見方・考え方を位置付けることによって，子ども自身の力で探究のために見方・考え方を自在に使おうとする姿こそがエージェンシーを発揮した姿であると考えている。

このような学習を経験した子どもは，自身の力で多角的に社会的事象を分析することを可能にし，よりよい社会に向けて様々な場面で主体的に課題解決へと向かう素地を養うようになり，well-being の実現につながるだろう。

５　指導と評価の計画（総時数　６時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等
一 ①	○　単元を貫く学習課題を「交通網の発展によって，人々の生活にどのような変化が見られるのか」に設定する ・東北地方の自然環境の概観 ・交通網の整備の歴史 ・中核都市と地方との格差	○　子ども自身の力で中核となる考察方法を決定させる活動を通して，本単元で中心となる考察方法について分析することができるようにする	［主体的に学習に取り組む態度］ ・交通網に注目して，東北地方の問いを見出したり，予想したりしている
二 ④ 本時 ❹	○　東北地方における伝統行事や文化について考察する ・伝統行事発展の要因の分析 ○　東北地方で行われている農業の工夫について考察する ・利益率向上に向けた工夫 ○　東北地方で果樹栽培が盛んに行われている要因について考察する ・他地域との差別化を図る各地域の工夫 ●　東北地方における工業の発展要因について考察する ・企業による工場立地の意図	○　見方・考え方を活用する場面を授業において授業者が意図的に設定する ❶発問に位置付ける ❷探究活動の中 ❸資料の提示 ❹振り返り ○　子どもの予想を適宜見直すことで，自分たちの解釈の変容を可視化させる	［思考・判断・表現］ ・交通網の発展が地域に与える影響について，多面的・多角的な考察を行うことができている ［主体的に学習に取り組む態度］ ・必要な資料や情報について，自分から提案することができる
三 ①	○　東北地方の地域的特色について交通・通信を基に整理する ・学習の関連性の整理 ・持続可能性について考察	○　既習の内容を新しく学ぶ内容と結びつけ，別の視点から地域的特色を理解させることで，理解を深め，これまでの考察結果を価値付ける	［知識・技能］ ・東北地方の地域的特色について理解することができている ・交通網の発展が地域に与える影響について，多面的・多角的な視点から理解している

６　本時案　―第二次・４時分―

⑴　主眼　　東北地方における工業の発展要因について考察する活動を通して，企業による工場立地の意図について説明することができる。

⑵　準備　　なし

⑶　学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	
1　東北地方における工業出荷額の推移を確認する どうして東北地方では工業が発展するようになったのだろうか ・本時の学習への見通し	ア　東北地方に，自動車の関連企業などが多く進出するようになっている イ　元々，東北地方で工業が盛んではなかったのはなぜだろうか	・　東北地方における工業発展の経緯についての仮説を立てることで，本時の学習の見通しをもつことができるようにする	5
2　東北地方における工業の発展要因について考察する 東北地方に第二次産業が育たなかったのはなぜか ・歴史的背景	ア　明治時代に，政府と対立をしていたから，工場が建設されなかったのではないか イ　東北よりも北海道の開拓に力を入れられたからではないか ウ　東北地方に工場を建てるほどの魅力を感じなかったから	・　必要な資料・情報を予想させ，生徒の要望に沿った資料を配付することで，生徒の探究活動を促すことができるようにする	15
どうして，東北地方の工業出荷額は大きく成長したのだろうか ・年度別工業製品出荷額 ・年度別主要立地 ・交通網発展の推移	ア　自然環境による影響を技術的な面で克服したから イ　交通網の整備によって，輸送が行いやすくなったから ウ　地価が他地域よりも安く，工業団地を形成しやすかったから エ　半導体などの新しい産業の発展とともに成長している	・　企業が既存の工場の周辺ではなく，東北地方に進出するようになったことを提示し，課題意識を高めることができるようにする	28
3　企業による工場立地の意図について考察する 東北地方へ企業が進出するようになった一番の要因は何か ・工場集約の特性 ・立地条件の変化	ア　交通網の整備が行われたから イ　工業が発展している地域よりも土地が安いから ウ　工業が発展している地域よりも労働力が安価だから エ　電力供給地に近いから	・　現在，工業立地で企業が最も重要視している点を選択し，議論させる活動を通して，工業の立地条件が時代の流れとともに通用しなくなっていることに気付くことができるようにする	42
4　本時で学習した内容を基に，これからの社会について考察する 次に工業が発展すると考えられるのはどこか（今後，工場が立地しなくなると予想されるのはどこか） ・工業立地の変容 ・産業立地論	ア　既存の工場が老朽化した場所を活用して工場が建つと思う イ　農村部の過疎化を活用して，工場が建っていくのではないか ウ　ICなどの高価で軽量なものの価値が高まるなかで，電力が必要になるため，水力発電のできる施設の近くに立地するはずだ	・　立地条件について再度整理する活動を通して，工業立地論から産業立地論へと変化している点に気付くことができるようにする	50

⑷　評価規準と方法

東北地方における工業の発展要因について，多面的・多角的な視点から考察することができているか，ノートの記述からみとる。

＜メモ＞

第３学年２組　社会科学習指導案

指導者　　吉岡　友子

１　単元　　これからの日本の財政はどうあるべきか
～第３部経済　第２章財政（帝国書院３年）～

２　指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは，市場の働きと経済の単元において，経済活動の意義について消費生活を中心に学びながら，市場経済の基本となる考え方に関する理解を基に，課題を追求したり解決したりする活動を経験している。対立と合意，効率と公正，希少性などに着目しながら，市場の働きと経済について関心を高め，課題を意欲的に追求する態度を育成してきた。このような子どもが，市場の働きにゆだねるのが難しい諸問題があることに気付き，課題を追求したり解決したりする活動に取り組めば，国民の生活と政府の役割について感心を高め，民主的な社会の形成者としての公民的資質・能力が育まれるだろう。そこで，単元を構想するにあたっては，次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は，エネルギーという現代社会に欠かせない社会資本の整備の現状をとらえ,これからの社会資本のあり方を考える教材となっている。生徒の発する肯定側の意見と否定側の意見が，どちらも有力な根拠をもって展開されると，聴衆の生徒は，その問題解決について「迷い」をもつようになり，よりよい問題解決策を探求する姿勢をもち続けるようになるであろう。ここでは，社会的事象を多角的に考え，個人や社会の良好な状態を追究する学びを大切にしたい。そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

○　第一次では，単元を貫く問い「私たちの生活はどのようにして守られているか」を，導入時に設定して，租税教室を活用し，専門家からの話をもとに歳入や歳出などの基本的な用語と社会保障･税の使い道等について理解することができるようにする。

○　第二次では，３つの論題を設定し，調べてディベートを行い，自分の主張とは違う立場について主体的に調べ討論することで，論理的に考え「選択・判断」するために多面的な見方・考え方ができ，社会的な判断力が身に付くようにする。

○　第三次では，ディベートを終えて，財政に関する自分の意見をまとめ，よりよい社会について既習事項を生かしながら多角的に考えることができるようにする。

３　目標

⑴　財政が公共財の提供などによって，現代世代のみならず将来世代をも含め，持続可能な社会の形成に資することを念頭に，人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを理解できる。　（知識及び技能）

⑵　市場経済の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して，国や地方公共団体が果たす役割について多面的･多角的に考察，構想し，表現することができる。　（思考力，判断力，表現力等）

⑶　少子高齢社会における社会保障の充実･安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか，税の負担者として自分の将来を関わらせて，考察したり説明したりできる。　（学びに向かう力，人間性等）

４　well-beingにつながる学びについて

本学園では，well-being を「個人だけでなく，社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には，教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を，人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには，エージェンシー（変化を起こすために，自分で目標を設定し,振り返り，責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考える。

本学園の社会科部では，社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育成する授業が，教科の本質に迫る授業だと捉えている。また，エージェンシーを発揮している姿を，社会的な見方・考え方を働かせ，自分の考えを形成したり，よりよい選択・判断をしたりしながら，課題の解決に向かう姿だと捉えている。

本単元においては，単元を貫く問い「私たちの生活はどのようにして守られているか」を念頭に，財政に関わる論題を設けディベートを行う場面を設定する。自分の主張とは異なる選択肢に出会い，これからの社会にとって何が必要かを考察し表現する様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは，ディベートを終えて，財政に関する自分の意見をまとめることで新たな選択肢に出会い，よりよい社会について，既習事項を生かしながら多角的に考えることができるようになり，well-being の実現につながるはずである。

５　指導と評価の計画（総時数　９時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等
一 ①	○　租税教室を活用し，専門家からの話をもとに歳入や歳出などの基本的な用語と社会保障･税の使い道等について理解する	○　単元を貫く問い「私たちの生活はどのようにして守られているか」を，導入時に設定する	［知識・技能］ ノート・発言 ・財政及び租税の意義，国民の農材の義務について理解している
二 ⑦ 本 時 ７ ／ ７	○　３つの論題について役割分担を行う ○　立論を考える ○　反論を考える ○　発表準備を行う ●　１時間単位１論題についてディベートを行う ・「老朽化する社会資本を整備するために社会保障関連費を削減すべきである」 ・「コロナ対策費で発行された国債の返還のために，消費税を２０％にすべきである」 ・「脱炭素社会実現のために，2030 年までに全ての火力発電所を再生可能エネルギーにすべきである」	○　班での話合いを中心に答えを導き出すことで，共同エージェンシーが育つようにする ○　個人で考えたのち班で立論の内容を吟味して論をまとめる ○　論を成り立たせるための根拠となる資料集めに主体的かつ効率的に取り組めるよう「お助けシート」を用意しておく ○　ディベートが終了したら，ワークシートの「ディベート後の意見」を書く	［知識・技能］ ワークシートへの書き込み・レジュメ ・社会資本の整備，環境の保全，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について，それらの意義を理解している ［思考・判断・表現］ ワークシート・発表原稿･発言 ・対立と合意，公立と公正，分業と交換，希少性などに着目して，国や地方公共団体が果たす役割について，多面的・多角的に考察・構想し，表現している
三 ①	○　ディベートを終えて，財政に関する自分の意見をまとめ,日本の財政の基本方針について議論する 「今の日本に必要なのは緊縮財政課、積極財政か」	○　よりよい社会について，既習事項を生かしながら多角的に考えることができるようにする	［主体的に学習に取り組む態度］ ワークシート・観察 ・国民の生活と政府の役割に［ついて現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている

６　本時案　―第二次・６時分―

⑴　主眼　　市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について，くらしがどのように守られているかを考えながら国民生活と福祉の向上を図ることを目的として検討する活動を通じて，国や地方公共団体が果たす役割と財政及び租税の役割を，多面的・多角的に考察したり，構想したりして表現することができる。

⑵　準備　　ワークシート，資料集，タブレット端末

⑶　学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1　脱炭素社会に向けた政府の目標について理解する 現在行われているエネルギー政策にはどのようなものがあるのだろうか	ア　資源を石油から天然ガスに移行している イ　原子力発電所の再稼動が議論されている ウ　ウクライナの影響で電気代が高くなっている	・　既習事項を確認して論題の共通理解を図ることができるようにする	5
2　ディベートを通じてエネルギー問題について追求し，日本の財政の行く末についても考えていく 脱炭素社会実現のために，2030 年までに日本は全ての火力発電所を再生可能エネルギーにすべきである ・立論	ア　火力発電所は二酸化炭素排出量が多く，発電所数も多いことがデメリットである イ　化石燃料には限りがあるので，持続可能な社会のためにも再生可能エネルギーに転換していくべき ウ　天然ガスへの移行の政策がとられていたが，国際情勢が不穏になると資源が入らない可能性がある	・　議論がかみあうように司会（教員）が促し、相手の考えを認めながらも，自分の正しさを主張できるようにする	10
再生可能エネルギーは万能なのだろうか	ア　太陽光などは天候に左右されてしまう イ　再生可能エネルギーに転換するには莫大な予算がいるので，また国債が増えてしまう ウ　再生可能エネルギーよりコストパフォーマンスが一番良い原子力発電を再稼働するのはどうだろうか	・　自分の主張とは違う立場について調べることで，「選択・判断」するための，新しい選択肢に出合うことができるようにする	20
・反論 火力発電所を使い続けることはできないのだろうか ・最終弁論	ア　火力発電所は、資源量が豊富で低価格なので安定的に供給できるというメリットがある イ　円安が続くと，資源が買えなくなるし、資源を輸入に頼り過ぎてはならない ウ　火力発電所をゼロエミッション火力発電所に切り替えてみてはどうだろうか		45
3　ディベートでの話し合いを基に自分の考えをまとめ、次時につながる政策を考える 脱炭素社会に向けた政策に係る多額の予算をどこから捻出すればよいのだろうか ・政策と財政の関連	ア　やはり原子力発電を稼働させて，工業生産量の増加を図らないと，日本の景気は良くならず，財政赤字だけが増えていく イ　コストをかけてでも再生可能エネルギーに火力発電所を転換していき，日本で自給出来るようにすべき ウ　防衛費を削る	・　財政に関する自分の意見をまとめ，よりよい社会について，既習事項を生かしながら多角的に考えることができるようにする	50

⑷　評価規準と方法

対立と合意，公立と公正，分業と交換，希少性などに着目して，国や地方公共団体が果たす役割について，多面的・多角的に考察・構想し，表現しているかワークシートからみとる。

＜メモ＞